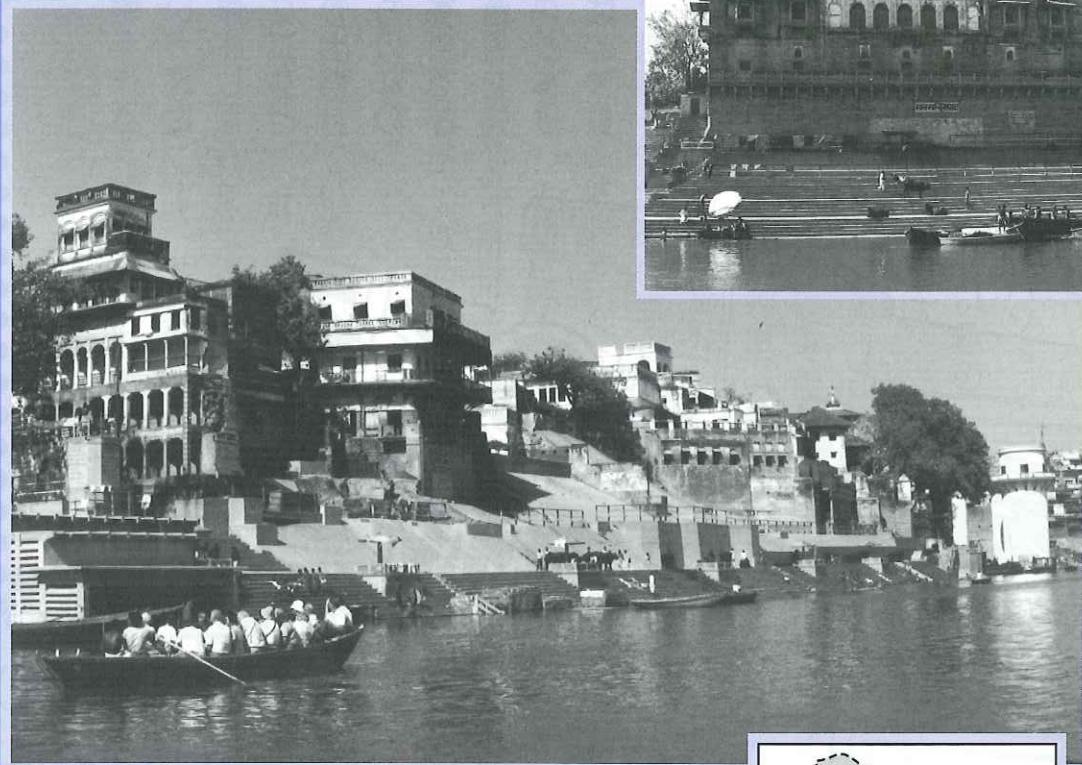


かながわ

No.13 2000.3.15

身边なお寺の情報誌



清らかにして聖なる河・ガンジス河

ガンジス河の西岸には沐浴場（ガート）があり、日の出とともに多くの人々が沐浴を行う。

釈尊の誕生日月の旧暦の5月の満月の「ブッダ・プルニマ」と呼ばれる日の朝は大勢の人たちがここに集まる。



法話

操作をパソコン自体が処理して、扱う人間にとってはより簡単な操作にならなくて、人間に歩み寄ってきてるといふのです。つまり、難しきことはパソコンの内部で全部処理し、パソコン自体がやさしくなって、人間に歩み寄ってきてるのです。

龍樹菩薩は、私たちが仏になる道は、一つあるとお示しました。一つは「難行道」で、もう一つは「易行道」です。「難行道」は、陸路を歩いて行くがごとく、険しく苦しいのです。反対に「易行道」は、水路を船に乗つて渡るがごとく、樂しいものです。もう少し説明するなら「難行道」は、自力で迷いの闇を打ち破り、自力でさとりを開き仏になる道です。私が仏になるのに、相当な苦労が強いられるのです。一方「易行道」は、私が仏になる一切の行（条件）は阿弥陀如来によつてすでに仕上げられているのです。だから、阿弥陀如來の救い（他力）は、無条件の救いで私にとっては難しくないのです。

親鸞聖人は、この身をもつて仏に至らしむるには、自力にはまかせる」とは出来ない、阿弥陀如來の救いにまかせるより外はないと「難行道」より「易行道」をすすめておられます。そして「易行道」こそが、仏になる道として勝れたものであることを説き示して下さっています。

ものの本質が本当に勝れてしるところとは、すべての人に対しても平等に易しきとをいいます。難しきことが易しくなったところとは、ものの本質が対象にあわせて形を変えたということです。最高に勝れた仏さま、阿弥陀如來は、難しい仏の道を私たちに易しく仕上げて下さいました。その陰には、大変なご苦労があつたところです。その阿弥陀如來のご苦労を「おかげさま」と喜ばせていただく、それが、「南無阿弥陀仏」です。

今、パソコンのキーをたたきながらやぱり難しきものがいいなあと感じてます。

私は、お寺の寺報を作るとき、パソコンという高度な器械にたよつて作成しています。しかしパソコンといふものは、作品の出来上がりは素晴らしいもののなですが、使いこなすまでがやっかいで相当な苦労を強いられます。私は、どちらかというと器械にはあまり強くない方なので、創刊号を作るときには、大変な時間費やしたのを覚えてます。

このパソコンといふ器械、最近ではだんだん人間に近づいているそうです。複雑な操作を経験しながら、パソコンの方から人間の要求を予測し、複雑な



宗派の動き

■本願寺御影堂平成大修復

一九九八（平成十）年十月より始まりました。本山本願寺御影堂平成大修復は順調に進んでいます。

御影堂が建立されたのは、今から約三六〇年前の一六三六（寛永十三）年です。



当時の記録によりますと建立にあたっては、全国各地から資材等が運ばれるなど、数え切れない方々の手によって建立されたことが窺えます。その後、一八〇〇（寛政十二）年の大修復をはじめとして幾度かのご修復がなされ、今日まで護られてまいりました。その御影堂を目の当たりにする時、これらの工事に携わった先人の方々の大変なご苦労を偲ばずにはおれません。

しかしながら、

建立以来、三六〇年以上経過いたしました現在、

第五期は九十八年四月から始まり、二〇〇〇年二月に全十二回の研修が終了いたしました。そして四月に築地本願寺において修了式が行われます。

また、第六期の開催も予定しておりますので、参加をご希望の方は所属寺までお申込下さい。

第五期は九十八年四月から始まり、二〇〇〇年二月に全十二回の研修が終了いたしました。そして四月に築地本願寺において修了式が行われます。

また、第六期の開催も予定しておりますので、参加をご希望の方は所属寺までお申込下さい。

神奈川組連続研修会 神奈川組の動き

各所で歪みや破損が生じ、早急の修復が必要となりました。

御影堂平成大修復は、二〇〇九（平成二十二）年初頭ごろの完工予定です。

し、各婦人会の交流と親睦をはかつてあります。ダーナ（布施）活動として、募金活動をおこない、宗派を通して社会福祉に役立てています。

「めぐみ会」結成十周年記念の集い

組仏婦連盟「めぐみ会」では、十月八日（金）に、結成十周年記念の集いを、築地本願寺において開催しました。

「めぐみ会」は、一九八八年九月五日に、神奈川組の仏教婦人会連盟として結成されました。以来、研修会開催などの活動を続けるなかで、組内各寺の門徒婦人の交流も深まり、単位仏婦結成も増加し現在では十三単位になりました。

正確には昨年が結成十周年に相当する時期でありましたが、ちょうど宗門あげて蓮如上人五百回遠忌法要をお迎えする年でしたので、本年度にあらためて十周年記念の集いを開催することとなつたものです。

当日は、百二十六名の参加者を得て、教務所長ならびに教区仏婦連盟近衛正子会長にも臨席を賜りました。記念講演では、発会時にもご出講賜

った千葉組・中原寺住職の平野俊興師を講師にお迎えし「いのちへの願い」と題してご法話を頂きました。

祝賀懇親会も、和気藹々とした雰囲気のうちに進行し、十年の成果を見るようありました。

第二十八回南ブロツク

お寺の林間学校



今年は七月二十四日（月）～二十六日（水）、静岡県駿東郡長泉町「桃沢少年自然の家」にて開校されます。詳細は所属寺までお問い合わせください。

■神奈川組仮教壮年会

組内の各寺院から集まつた会員が活発

に活動中。隔月に研修会を開催し、昨年は山梨県富士吉田市に「巡拝行脚」を行いました。

富士吉田市三ヶ寺参拝と 日帰り温泉ツアーアイ

一九九九年十月二十二日（金）、恒例

となりました組仮壯巡拝行脚が開催されました。第三回を迎えた本年度は、神奈川組から外に出て、山梨県富士吉田市新倉を訪ね、都留組の三ヶ寺を参拝しました。参加者は予測を上回り、大型、中型の二台のバスを連ねた五十五名の参拝団となりました。

富士吉田市新倉は、浄土真宗に篤く門信徒の協調性の高い土地柄で、大正寺・如来寺・正福寺と隣接する大伽藍を巡拝。各寺のご住職をはじめ、みなさまの歓待を受け、参加者一同感激の至りがありました。

お念佛の味わいもさることながら、昼食は当地の名物ほうとうに舌鼓。また帰りには、「富士・緑の休暇村」にある温泉に入浴。日帰りの研修旅行ではありましたが、充実感を満喫した一日がありました。

【九九年度慶弔】

▼認証

十一月一日付、川崎布教所が本山より淨照教会（淨照寺）として認証。

主管は加藤孝充師。

▼就任

四月一日付、三ツ境布教所の専従員に寺田崇裕師が就任。

四月二十四日付、普然寺の住職に長谷山顯俊師が就任。

▼慶賀

五月 正樂寺

住職繼職奉告・会館落慶法要

▼往生

十一月 東善寺坊守

長谷尾愛子様 七十九歳

▼結婚

九月 常念寺 古市道仁さん結婚

▼住職

住職繼職奉告・本堂落慶法要

▼平等

一月 善教寺前坊守

▼幸枝様

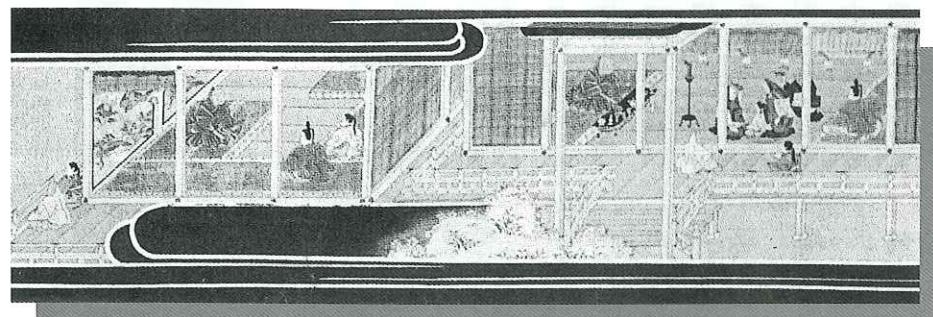
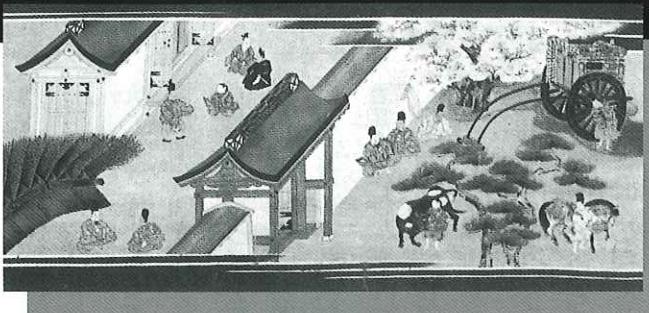
八十七歳

親鸞聖人のご生涯

特集

親鸞聖人のご生涯を、ご絵伝を見ながらたどっていきます。
今回はお誕生から法然上人の門下に入られ、「選択集」を見写されたころまでです。

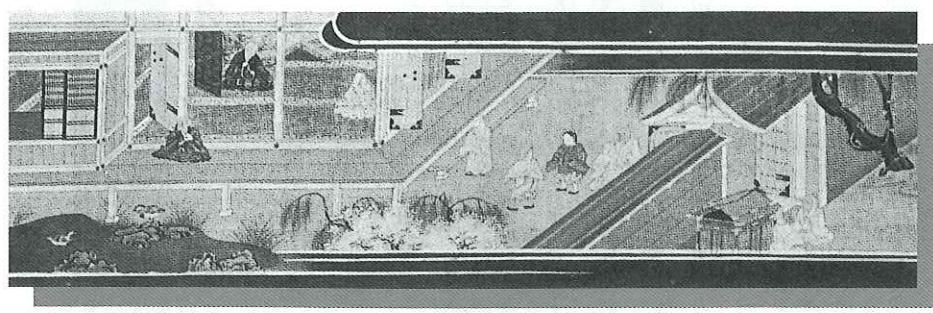
1



【得度】

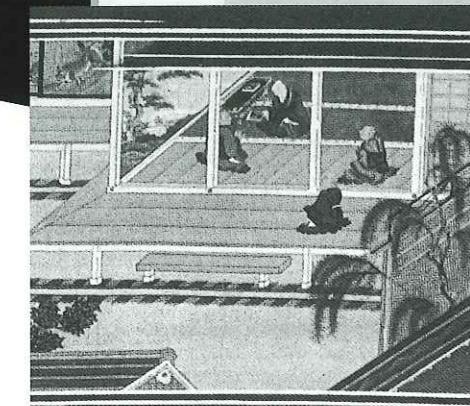
親鸞聖人は、1173(承安3年)京都日野でお誕生。幼名を松若丸といいました。
1181年(養和3年)3月の春、京都東山の青蓮院で慈円僧正のもと出家、得度をされ、法名を範
宴とされました。

2



【吉水入室】

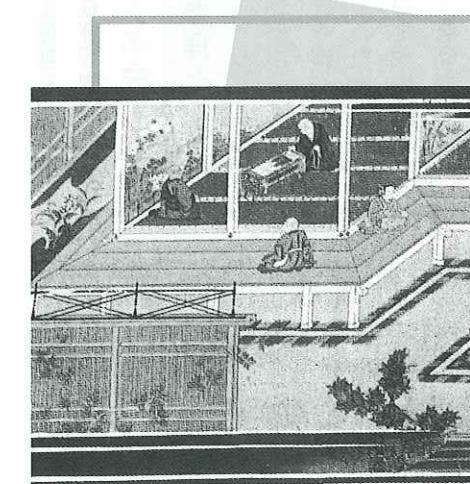
比叡山にて、20年間厳しい修行と勉学に励まれましたが、修行をつめばつむほどわが身に
煩惱があることを知らされ、苦悩されました。29才の時、悩みぬかれた親鸞聖人は、阿弥陀仏
のお念仏の教えを説かれていた吉水の法然上人を訪ねられました(法然上人69歳)。法然
上人から「ただ念佛して弥陀にたすけられまいらすべし」とお聞きになり、上人を生涯の師と
仰ぎ、随順しようと決意されました。この時、法名も範宴から綽空に改められました。



【選択集を書写】

法然門下に入ってわずか4年後のこと、師の法然上人から『選択本願念仏集』の書写を許されました。1205年(元久2年)4月のことでした。その時、法然上人は、親鸞聖人が写本したものに書題と「南無阿弥陀仏 往生之業 念
仏為本」という銘文を書入れて授与されました。上人ご在世のときに書写を許された直弟は、わずか十人程度が知られているだけで、門弟のなかでも信頼の厚かった人びとでした。

3



【ご真影に銘文】

同じ日、法然上人のご真影(お姿)を許されました。そして、その年の7月に図画し終えたので、上人にお見せしたところ、上人は「南無阿
弥陀仏」と「若我成仏十方衆生称我名号」のご文をお書きになりました。

さらに、上人は、親鸞聖人の法名の綽空を改めて、釈善信とお書き入れになりました。(この時、釈親鸞と改めたとする説もあります。)

聖人はその喜びを『教行信証』にも書き残されました。

〈次号につづく〉

雜学門徒もの初 録

4

法燈明

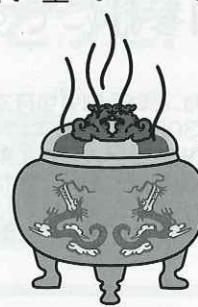
◆本願寺御用達のお香◆

ひとくわに「お香」と云つても、その種類も香りも使い方もさまざまです。

西本願寺の門前には、香の老舗「おうのくわせや玉堂」があります。参拝の折に、のぞいて見ましょひ。

といふて、いの初代は中村五郎重則といつて、蓮如上人にふかく帰依したといわれます。四代田八重成は、本願寺の護持に尽力し、石山合戦のときには、親鸞聖人のご真影を背負つて避難し、顯如上人とともに紀州鷹森に下つたといいます。それで「おうの負野」の姓を賜つたといわれます。

一五九四(文禄二)年、五代目理石衛門照成が上洛して現在地でお香の調進所を創業、現在に至っています。



「自死」異常な増加 適切な対処を



警視庁の調査によりますと一九九八年の自殺者数は三万一千八百六十三人で、前年より三十四、七%も増えるといつ過去最悪の事態になつてしまつたのです。この数字は、交通事故による死者の数の三倍以上になり、まさに異常事態といつても言つ過ぎではないと思ひます。特に中高年の男性の自殺者の増加が目立つとのこと、

業績不振やリストラを引き金に死を選択するケースが目立つのだそです。また、九十八年度の公立の小中高生の自殺も前年度に比べて四十四、四パーセントも増加し

たとの報告があります。
朝日新聞によると、欧米では自殺予防対策の中で「自殺者の九割は何らかの精神疾患を持ち、うち五割前後はうつ病だった」との報告がなされています。そして、うつ病は治る病気であり、適切に介入するといいで自殺者をある程度減らすことは可能とのことです。

ストレスの多い社会で、一心に前に突き進んでいく内に精神的に限界を越えてしまうことだと思います。走って走って気がついてみたり、周りに誰もいないと

いうような孤立感。これは、ある程度誰でも持つてゐる思いではないかと思います。その孤立感が限界を越えたとき、自殺願望が突如として生まれ大きく膨らんでくるのではないかでしょうか。

自殺ばかりではありません。耳を驚かすような事件が相次いでいます。その中には、精神的孤立感から生じた事件と思えるものが数多くあります。なにか、日本の社会全体が「うつ病」な状況になつてきているのではないかと疑つてみたくもなります。

私たちは、いつの間にかうつ

の「ゆとり」と「ゆとりを生じる」かに置き忘れておひつまつてしまふのではないかと思ひます。仏教は、そのいじめの「ゆとり」を生じさせる教えです。自分自身のこころの状態をふり返る習慣を身につけます。そして、一人では決して生きてづくことのできない身であり、多くの人のおかげによつて生かれされていることを知りがあるのであります。あたりまえと思っていたこと

が、それではなく私への大きな働きであったと氣づき感謝することのできるこころを育てるのです。そして、そのいじめを、法話を聞く(聞法)といつ習慣のなかで常に失わないのが念佛のあり方です。

うつ病と判断できるなり、迷わず早く医師に相談するといと。必ず治るのですから。
また、周囲の適切な介護も必要

です。勝手な思い込みで対処してはいけません。専門医からの適切な指導を受けましょう。

うつ病に対する理解と対策は、今とても重要な問題だと思います。それと共に、社会の中で、一心に突き進んで行く上で、仏教の教えに合つ時間を大切にしてづける「ゆとり」ある状態を個々の中に作つてほしいことが重要なことだと思ひます。

有頂天 うちよんてん

仏教では二界といつて、存在するものが、生死の迷いを繰り返している世界を、「欲界」「色界」「無色界」の三つに分けます。

「欲界」には地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天という六つの境界があり、いずれも欲にとらわれるために苦しむ世界です。 「色界」は、欲望はないけれども物質的な束縛からは離れることのできない境地で、十七の天界があるとなります。さらに「無色界」になると、物質的な束縛を離れた精神の世界となります。その精神界には四つの天界があり、その中でも最高に位置するのが有頂天です。有（存在するもの）の頂点の天界というわけです。

有頂天は、非想非非想処（想いがなく、かつ想いがないでもない）という瞑想段階の最高の境地もあります。しかし、瞑想する主体のとらわれによつて至る境地なので、それはまだ、仏さまの智慧を素直に仰ぐという姿勢に欠け、自力の執心という迷いの領域からは抜け出でていません。

気をつけなければならないのは、失意のときよりも得意のときだといわれます。われを忘れ他人をかえりみない、そんな有頂天の気分になつているときこそ、自重しなければなりません。



(参考) バックナンバー掲載語

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1号一がらんどう | 5号一布施 | 9号一他力本願 |
| 2号一往生 | 6号一うろつく | 10号一四苦八苦 |
| 3号一出世 | 7号一ありがとう | 12号一我慢 |
| 4号一諦める | 8号一娑婆 | |



★京都にホテルはいろいろありますが、西本願寺にも、一昨年の蓮如上人五百回遠忌を記念して完成したばかりの「聞法会館」という、快適な宿泊施設があります。どなたにもお泊まり頂けます。

料金はお一人様、一泊二食（朝夕）9,000円（税別）～。一泊朝食7,000円（税別）～。

お申し込み・お問い合わせ／京都市下京区堀川通花屋町上ル柿本町600-1
本願寺「聞法会館」TEL.075-342-1122。

現在 いま を 大切 に

ちょっと一息

仏法者申され候ふ。わかきとき仏法はたしなめと候ふ。としよれば行歩もかなわず、

ねぶたくもあるなり、ただわかきときたしなめと候ふ

（『蓮如上人御一代記聞書』）

一見このお言葉は、歳をとつてから仏法をたしなむことは難しい。だから若いうちに仏法を聞くなくては駄目であると解釈されがちです。しかし、そのようには受け止めていいのでしょうか。

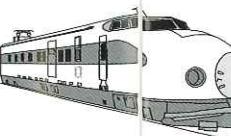
このお言葉は、現在仏法を聴聞する機会（仏縁）を大切にしなくてはならないと教えて下さっているのです。

「私はまだ若いので仏様のことはもう少し先にいたします」といわれる方が多くいらっしゃいます。私たちは老少不定、つまり先のことが分からぬいのちを今生かされているのです。今いただいてる仏縁を後回しにしては取り返しがつかない事になってしまはずよと、教えて下さつてると受け止めさせていただきたいものです。

仏法のうへには、明日のことを今日するやうにいそがたること、賞讃なり

（『蓮如上人御一代記聞書』）

今いただいてる尊く、ありがたい（有ること難い）仏縁を大切にいたしましょう。



思い立ったら、京都にいきましょう。もちろん、ご本山参拝にです。

★それからもうひとつ、京都に行くならお得な乗車券があります。『本願寺乗車票』という割引切符です。 料金は、たとえば東京→京都の指定席で、通常片道13,220円のところ、11,530円となります。 ただし有効期間は発売日から一ヶ月。指定席の場合はその列車に限り有効で、自由席は記入された乗車開始日より七日間有効です。変更についてはいくつかの制約がありますので、各旅行社にお問い合わせ下さい。

この乗車券の取り扱いは、JTB日本交通公社・近畿日本ツーリスト・日本旅行の各支店となっています。

仏事のこころえ

ご存知ですか？

お焼香のしかた

古代からインドでは、目上の人に会うときなどには、香を体に塗ったり衣服につけて臭気を除き、清浄にすることが礼儀とされていました。これが仏教にもとり入れられ、私たちが仏様に対して感謝と尊敬の念で礼拝するとき、その作法として香が用いられているのです。

お焼香のしかたは、宗派によってちがいはありますが、浄土真宗本願寺派の作法では、次の通り行います。

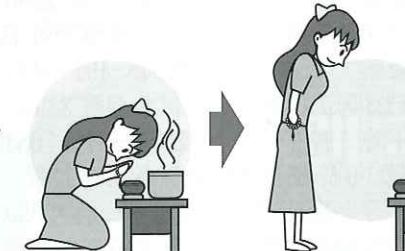
①まず、焼香卓の二、三歩手前で、御本尊に向かってかるく一礼します。



②前に進み、香を右手でつまんで、香炉の中に入れます。焼香は一回。何回もする必要はありません。また、香を額に押し頂くような動作はしません。



③合掌し、静かに念佛を称え、礼拝します。



④二、三歩さがり、かるく一礼します。



「宗教をどう教えるか」

(朝日選書630)

菅原伸郎 著

筆者は、朝日新聞社の学芸部「こころ」編集長として、「宗教と教育」という記事を連載していました。本書は、その九十四回分の記事に加筆し、編集したものです。

オウム真理教事件は、世界中を震撼させた事件でした。宗教は必要なのかどうか。筆者は、「根源的覚醒」は唯物論の人にも共通した課題であると語ります。

宗教は、いつたい、だれが、何を、どう教えるのか。よくよく考えていかなければなりません。宗教は、「畏敬の念」を教えることなのか。「いのちの大切さ」を本当にどうすれば伝えられるのか。記者である筆者が、その取材力をもって裏打ちされた記事は説得力を持っています。また、「心の教育」答申についても、筆者は本書で疑問と提言を投げかけています。

宗教団体にかかわる事件が、ニュースをにぎわしている昨今、「宗教をどう教えるか」ということはとても重要な課題です。単に「宗教は訳の分からない、危険なもの」と避けて通ることは、人間がもつ宗教性を考えるとむしろ不自然なことです。だから、若者達が怪しげな世界に迷い込む前に、「宗教をどう教えるか」を考えねばならないと筆者は力説するのです。



お寺を訪ねて(12)

横浜市営地下鉄センター北駅から西に10分程歩いたところにある東善寺は、港北ニュータウンの中にありながら「ここが本当に港北ニュータウン？」と思わせるようなどかな風景の中に佇んでいます。

横浜市港北区役所発刊の『港北の遺跡を訪ねて』によりますと、「宗派は浄土真宗本願寺派に属しているが、『新編武藏風土記稿』によると開山淨念、天正4年(1576)9月11日寂す。本尊は阿弥陀如来の立像、1尺9寸(53cm)、この寺は古ヘ禪宗にて橘樹郡小机村雲松院の末なりしが、天正の頃改宗して今の宗門になれり。又、古き半鐘を持傳えしが其銘文の内には、大永4年(1524)9月大朋山得藏院改名東善寺と刻せり(中略)」とある。また、「承応3年(1654)に禪宗の得藏院から浄土真宗の東善寺へ改宗されたとのことであるが、時々無住の時期が長く続いた。明治の初め頃、足柄上郡の新楽寺から長谷尾大円師が入寺し、荒れ寺を中興した」と紹介されています。中興大円師を初代として現住職長谷尾芳雄師が3代目です。

そして、それまで古いお御堂が建っていましたが、ご門徒さんの中から「本堂も老朽化してきたので、そろそろ新築はどうか?」という声がおこり、ご住職も意を決して、1987年に新築の計画を始め、1990年着工、1993年に現在のご本堂が完成しました。ご住職のはなしでは、建築に際して度々木曽の営林署に足を運び材料を選んだ等のご苦労があったそうです。1996年客殿、1997年には庫裏も完成しました。

また、古いお御堂にご安置されていたご本尊は室町中期の作で、新築の際ご修復されて現在のご本堂にご安置されています。

ご住職は「これでいよいよハード(建物)が整ったので、次の世代になるかもしれないが、これから婦人会・定例法座といったソフト面を充実させていきたい」とおっしゃっていました。

ポストエイオス研究会

インターネットのホームページを開設。
法話や仏教情報などのページです。

<http://www2s.biglobe.ne.jp/~posteios/>



テレホン法話

電話で仏さまのみ教えを!

●築地本願寺こころの電話

TEL.03(3541)0282
TEL.045(662)5629

●長念寺テレホン法話

TEL.044(911)8282



ーのどかな風景の中のお寺ー

とうせんじ 東善寺

(横浜市都筑区中川7-18-29)

お手々のしわとしわをあわせて…しあわせ

日本の美・日本の心をお届けします。

お仏壇の はせがわ



業界初の上場企業
関東地区84店舗・全国で129店舗

~お仏壇、お仏具等~
**特別割引
大ご奉仕中!!**

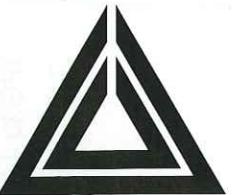
※セール商品は除きます。
墓石・霊園も
好評お取り扱いしております。

しあわせ少女たばさちゃん

横浜・川崎地区的店舗ご案内

金沢文庫店	横浜市金沢区谷津町352-7 オオサワヒルズ1F	0120-876-768
上大岡店	横浜市港南区日野5-1-25	0120-767-628
戸塚店	横浜市戸塚区柏尾町440-1	0120-767-627
今宿店	横浜市旭区今宿東町1621	0120-767-658
新杉田店	横浜市磯子区杉田1-2-3	0120-484-883
長津田店	横浜市緑区いぶき野3-1	0120-744-194
鶴見駒岡店	横浜市鶴見区駒岡町4-23-4	0120-176-761
日吉店	横浜市港北区日吉3-4-8 リバーサイド日吉	0120-639-010
鷺沼店	川崎市宮前区東有馬1-1-19	0120-876-768
川崎店	川崎市川崎区東田町2-1	0120-767-577
町田森野店	町田市旭町1-8-20	0120-768-201

営業時間／午前10時～午後7時　日曜・祝日も営業いたしております。



お仏壇の
はせがわ

昭和59年 京都西本願寺阿弥陀堂
昭和大修復事業
昭和62年 京都清水寺開山堂御厨子
三重塔堂内修復事業
昭和63年 福岡証券取引所
業界初の株式上場
平成6年 大阪証券取引所第2部
株式上場

製造部
(株)はせがわ美術工芸
(国宝美術品、寺院神社)
(株)長谷川仮壇製作所(純金箔仮壇)
江川木工(株)(唐木仮壇)
(株)長谷川唐木仮壇製作所(唐木仮壇)

わたしたちのお寺です

浄土真宗本願寺派 神奈川組

えんこうじ 円光寺	〒210-0814 川崎市川崎区台町 4-21 石川 康承 044-266-2677
ほうえんじ 宝円寺	〒210-0838 川崎市川崎区境町 5-10 飯田 琢亮 044-222-3941
こうとくじ 光徳寺	〒210-0848 川崎市川崎区京町 1-14-3 林 信順 044-333-3997
しょうらくじ 正楽寺	〒212-0016 川崎市幸区南幸町 2-49 佐々木俊博 044-522-1961
こうがんじ 高元寺	〒211-0051 川崎市中原区宮内 4-3-12 宮本 義孝 044-777-6544
ちょうねんじ 長念寺	〒214-0014 川崎市多摩区登戸 1416 小林 泰善 044-911-2549
じょうねんじ 常念寺	〒215-0033 川崎市麻生区栗木 203 古市 道仁 044-988-0205
じょうしようじ 淨照寺	〒216-0004 川崎市宮前区鷺沼 2-5-7 加藤 孝充 044-855-2780
ぜんりゅうじ 善龍寺	〒221-0811 横浜市神奈川区斎藤分町33 斎藤 幸紹 045-491-9431
ぜんきょうじ 善教寺	〒223-0057 横浜市港北区新羽町 2396 平等 勝尊 045-541-7684
きょうがくじ 教覚寺	〒223-0057 横浜市港北区新羽町 2395 平等 真証 045-531-5050
こうりんじ 光輪寺	〒223-0064 横浜市港北区下田町 3-2-9 村石 恵照 045-561-8671
とうぜんじ 東善寺	〒224-0001 横浜市都筑区中川 7-18-29 長谷尾芳雄 045-911-3509
ちょうとくじ 長徳寺	〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西3-9-1 平塚 大乘 045-911-7351
じゅふくじ 寿福寺	〒224-0033 横浜市都筑区茅ヶ崎東1-7-1 多田 龍空 045-942-3721

さいじょうじ 最乗寺	〒224-0034 横浜市都筑区勝田町 1277 日野 教昭 045-941-3541
じおんじ 慈恩寺	〒224-0055 横浜市都筑区加賀原2-18-1 小泉 敬信 045-934-8648
さいしょじ 西勝寺	〒225-0003 横浜市青葉区新石川1-10-8 藤下 悅乗 045-911-0156
ちょうえんじ 長延寺	〒226-0015 横浜市緑区三保町 2440 雲居 隆栄 045-932-3348
さいがんじ 最願寺	〒230-0001 横浜市鶴見区矢向4-19-18 藤江 義昭 045-571-4694
ほうこうじ 宝光寺	〒231-0062 横浜市中区桜木町 3-5 藤田 恭順 045-201-3509
ぜんねんじ 善然寺	〒232-0061 横浜市南区大岡 2-26-17 長谷山顕俊 045-741-2351
せんしょうじ 宣正寺	〒232-0063 横浜市南区中里 3-20-18 早島 大英 045-731-2679
せいらいじ 清来寺	〒241-0034 横浜市旭区今宿南町 1895 曾我 求真 045-951-0012

本願寺築地別院都市開教布教所

横浜 布教所	〒240-0065 横浜市保土ヶ谷区和田2-12-19 開田 蓮成 045-341-7455
三ツ境 布教所	〒241-0816 横浜市旭区 笹野台 3-9-9 寺田 崇裕 045-364-2266
磯子 布教所	〒231-0835 横浜市中区根岸 加曾台25-47 中戸 達雄 045-623-4480

地域内の東京教区寺院

かみよそ組 妙蓮寺	〒215-0002 川崎市麻生区多摩美 1-27-1 山本 浩真 044-966-5304
にしき組 覺永寺	〒225-0004 横浜市青葉区元石川町 6391 喜代多證宣 045-901-0570

かながわそ 「神奈川組」とは…

私たちの教団（浄土真宗本願寺派）は、全国に一万余りの寺院を擁し教団独自の地区割をしています。その一番小さな単位を「組」といいます。神奈川組は、川崎市と横浜市中部と北部の寺院によって構成されています。

浄土真宗本願寺派東京教区神奈川組

組長／林 信順
副組長／斎藤 幸紹 相談員／早島 大英
金子 貞夫（門徒）副組長／小林 泰善 相談員補佐／宮本 義宣

一茶の俳句から

蠅一つ打てはなむのみだ仙哉

普通、「ひるむむこ蠅だな」といひてたたきますね。しかしそのトドから、「アッ、殺生なことをした」と悔いる。

この句には、凡夫一茶の謝る気持ちというものが素直に出ております。ですから「なんまんだがつ」といふのは、すぐ手を出してたたいたりする、愚かな私なんだけれども、それをコソロールするはたらきを持つてゐるのが「なんまんだがつ」だと、一茶は受け取るんでしょう。蠅一つ打てはなむあみだ仙哉。「ああ申しわけない私だつた」と、そこに愚の上にはまた愚にかえるという、愚の自覚というものが「なんまんだがつ」に照らして、いつも省みられてゐる。わざわざ一茶の心境だわうと思ひます。

早島鏡正著『念佛一茶』
四季社刊より

(K.K)
深い闇が存在する。
現実には育児放棄や幼児虐待が日々繰り返し起こっている。そこには人間らが作り出した底知ぬ

編集後記

去年の五月二十一日、親鸞聖人

降誕会の日に我が家に第一子が誕生した。ちなみに同日佐渡ではトキが生まれた。トキはもう一人で飛ぶ事が出来るのだろうか。ちなみに我が愛息は一人でハイハイが出来るようになってしまった。這え

ば立て、立てば歩めの親心とはよく言つたもので子どもの成長はそのままが親の願いと喜びである。

と、すべての親がそうだと思っていたしそう信じていた。しかし、いたしそう信じていた。しかし、



浄土真宗本願寺派（西本願寺）

横浜市都筑区勝田町1277

勝田山 最乘寺

〒224-0034 電話045-941-3541

組報かながわ No.13

■発行日 2000年3月15日
(毎年1回3月発行)

■編集発行 浄土真宗本願寺派
東京教区神奈川組
基幹運動推進委員会

〒210-0848 川崎市川崎区京町1-14-3 光徳寺内